厚生労働省　児童福祉文化財 認定記念企画

心をつなぐ紙芝居の世界　Vol.10

センス・オブ・ワンダー & イマジン

今、届けたい紙芝居

Part 2

今、紙芝居の「文学」としての認識や評価が高まってきています。
その本質を皆さまと共により深く極めていければと、プログラムを組みました。
ハンセン病の真実を伝える「わたしの命の物語」を含め、珠玉の14作品の魅力を探っていきましょう！
森内直美と「心をつなぐ紙芝居の会」のメンバーが上演いたしますが、自由な意見交換の時間も設けていますので、ぜひ和やかに語り合いましょう！

「もしもあめのかわりに」「注文の多い料理店」「ないたあかおに」
「トキのあかちゃん」「いなむらの火」「おじいさんとおばけ」「うなぎにきいて」
「ぬすびととこひつじ」「かたきうちのはなし」

2026年5月16日(土) 13:00～16:30 (開場12:30)

会場：ひらしん平塚文化芸術ホール内 多目的ホール

入場無料（お申し込み不要）定員100名小学生以上　お問い合わせ 090-7197-2418(森内)

〒254-0045 神奈川県平塚市見附町 16-1

■電車でお越しの方

JR 東海道本線「平塚駅」西口から徒歩８分

■バスでお越しの方

神奈川中央交通「平塚文化芸術ホール前」から徒歩２分
または神奈川中央交通「見附町」から徒歩４分

※駐車場はございませんので、なるべく公共交通機関をご利用ください。
※専用駐輪場（有料）は施設前（ホール南西側）にございます。

主催：心をつなぐ紙芝居の会

共催：子どもの文化研究所　後援：平塚市教育委員会

先人たちのことば

私は、この病的にせかせかした時代に紙芝居こそ「救い」だと思った。荒野のような現代に残された「野の百合」のような文化である。

周郷　博

「紙芝居 創造と教育性」より

紙芝居の魅力は何であらうか。必要以外の一切のものを省き、もうこれ以上に無駄を去ることが出来ないといふところまで追ひつめているあの方法の、あの構造のせいではあるまいか。云はば渇いた時に山の中で清い泉から飲むやうな喜ばしさとでも云ふのであらうか。

佐藤　春夫

1948年「紙芝居」復刊第四号より

上からゆくな。下からゆくな。対等にいけ。

高橋　五山

「紙芝居 創造と教育性」より

作品を生かすも殺すも演者しだいだ。
演者のうまい、まずいより、人格が端的に出ることを注意すべきで、だからこそしっかりした文化論を持っていなくてはならない。

川崎　大治

「ほるぷ紙芝居―黄金期名作選 解説」より

私は、紙芝居は「3歳から80歳までの芸術」だと考えている。

川崎　大治

「紙芝居 創造と教育性」より

紙芝居を演じるということは、ただ作品を見せるだけのものではない。
やる人が、その人間性や人格の全てをあげて積極的に文化創造に参加していることであるのだ。

堀尾　青史

「紙芝居 創造と教育性」より

よい紙芝居は、かならず心の変革、進展、情操が深まるものです。

堀尾　青史

「心をつなぐ紙芝居」より